

「第 27 回戦争遺跡保存全国シンポジウム 北九州 やはた大会」
～B29 日本本土初空襲から 80 年～

開催報告書



1 期 日 2024年8月17(土)18日(日)19日(月)

2 場 所 九州国際大学/北九州市八幡東区平野 1-6-1

3 主 催 戦争遺跡保存全国ネットワーク

第27回戦争遺跡保存全国シンポジウム北九州やはた大会実行委員会

九州国際大学地域づくりコース[三輪ゼミ] 九州近現代考古学談話会

聞き書きボランティア「平野塾」 特定非営利活動法人北九州市の文化財を守る会

事務局/特定非営利活動法人北九州市の文化財を守る会 前 菌廣幸

住所:〒805-0064 北九州市八幡東区西台良町 10-3 電話:090-4988-5123

オブザーバー/重信幸彦(北九州市平和のまちミュージアム館長)

ホームページ/ <https://www.yahata.info/>

4 後 援 北九州市 北九州市教育委員会 福岡県 福岡県教育委員会 九州国際大学

朝日新聞社 毎日新聞社 西日本新聞社 読売新聞西部本社

RKB 毎日放送 KBC テレビ西日本 ジェイコム九州

5 協 賛 (公財)北九州観光コンベンション協会

6 開催趣旨

旧八幡市は、1897(明治 30)年 2 月、官営製鐵所の建設地が八幡に決定されると、町も大きく変貌し、1917(大正 6)年に八幡市が誕生、製鐵所も工場拡張を繰り返し、1922(大正 11)年に完成した二代日本事務所の 1 階には陸軍、2 階には海軍の事務所が設けられた。

太平洋戦争開戦後の 1942(昭和 17)年 4 月には、八幡製鐵所は「重要事業場労務管理令」による「重要事業場」に指定され、鉄鋼生産は、国内生産量の約半分を産出していた。

アメリカは、最初の戦略爆撃機 B-29 による空襲目標を八幡製鐵所とし、1944(昭和 19)年 6 月 15 日中国成都から出撃させ爆撃した。そして、翌年 8 月 8 日には、B-29 による市街地を目標とした焼夷弾爆撃により、死傷者は約 2,500 人、罹災戸数約 1 万 4000 戸と壊滅的な被害を受け、見渡す限り焦土と化した。

戦後は、「燃えない都市」造りを進めると共に、「心の復興」に重きを置いた施策を都市計画に位置づけ、日本初の「都市型公民館」建設等市民の心に寄り添い、復興を象徴するシンボル「平和の女神像」を中心とした八幡駅前の景観を整備した。

北九州市は、2022(令和 4)年 4 月戦争の悲惨さを伝えるとともに、平和の大切さや命の尊さを考える拠点として「北九州市平和のまちミュージアム」を開設。また市内には、関門海峡防備の為、明治期に設置された矢筈山堡壘など下関要塞の施設が、良好な状態で残されている。加えて、太平洋戦争中は、製鐵所等の軍需工場を守るため、重要な防空要地に指定され、多くの高射砲部隊が配置され、石峰山高射砲陣地など島や山中に設置された施設が数多く残存している。

戦争体験者が減少する中、戦争遺跡保存全国シンポジウム開催を機に、これらの戦争遺跡の保存と活用の機運が高まることを願って開催した。

7 大会開催状況

8月17日(土) 全体会・講演会 [九州国際大学 KIU ホール]

受 付 12:00～ 全体会 13:00～



地域別の受付



受付状況

① 開会挨拶(司会) 実行委員長 九州国際大学 三輪 仁

② 歓迎挨拶 八幡東区長 喜洲 淳哉



実行委員長挨拶



八幡東区長歓迎挨拶

③ 記念講演 九州近現代考古学談話会会長 武末 純一
「近現代考古学と住民参画」



記念講演



九州近現代考古学談話会会長 武末氏

…… 休憩 ……

④ 基調報告 戦争遺跡保存全国ネットワーク 共同代表 菊池 実

⑤ 地域報告 九州国際大学地域づくりコース[三輪ゼミ]

「私たちが継承すべき北九州・八幡の戦争の記憶」～平和に架ける想いと若者の意識～



基調報告/ネットワーク共同代表 菊池氏



地域報告 三輪ゼミ



三輪ゼミの学生 1



三輪ゼミの学生 2



全体会閉会挨拶 前藺氏



KIU ホール内の状況



各団体活動報告展示 1



各団体活動報告展示 2



交流会会場



歓迎挨拶/平和のまちミュージアム館長 重信氏



乾杯の音頭/実行委員長 三輪教授



地元の食事/焼きうどん・かしわ飯等



出席者の一言 1



出席者の一言 2/平野塾代表 出来谷氏



出席者の一言 3/実行委員会事務局長 宇野氏



八文字焼

8月18日(日)分科会・シンポジウム閉会 [九州国際大学2号館 各教室]

受付 8:30～ 分科会 9:00～15:00

① 第1分科会/保存運動の現状と課題 2203 教室

	氏名	所属団体	レポート名
1	土屋 篤典 <small>ひじゃ</small>	亀島山地下工場を語りつぐ会	戦時下、三菱水島航空機製作所紫電改生産を掘り起こす
2	岸本 正 山田 譲	日吉台地下壕保存の会	瀬谷海軍弾薬庫跡の現状と課題
3	山田 譲 中田 均	日吉台地下壕保存の会	3D モデルで日吉台地下壕を探ってみよう!
4	鮎澤 譲	山梨県戦争遺跡ネットワーク	「戦争遺跡」としての富士川発電用導水路
5	和田千代子	731 部隊遺跡 世界遺産登録を目指す会	「731 部隊」遺跡保存と世界遺産登録へ経過と課題
6	中田 均	浅川地下壕の保存をすすめる会	本土決戦準備期における小笠原の要塞化

② 第2分科会/調査の方法と整備技術 2104 教室

No.	氏名	所属団体	レポート名
1	高谷 和生	くまもと戦争遺跡・文化遺産 ネットワーク	陸軍菊池飛行場出土演習弾等と爆撃場
2	梶 丈太郎 <small>かなえ</small>	戦跡保存全国ネットワーク	鹿児島県奄美大島の戦争遺跡
3	橘 尚彦 <small>よりひこ</small>	戦跡保存全国ネットワーク	大阪・旧真田山陸軍墓地の福岡県出身西南戦争戦死者墓碑
4	平川 豊志	松本強制労働調査団	長野県内の旧陸軍飛行場の今
5	前蘭 廣幸 <small>まゐぞの</small>	戦跡保存全国ネットワーク	北九州市の戦争遺跡「下関海峡防御の遺構」
6	工藤 洋三	戦跡保存全国ネットワーク	丙編成防備衛所と二式磁気探知機

③ 第3分科会/平和博物館と次世代への継承 2105 教室

No.	氏名	所属団体	レポート名
1	奥村 英継	戦争遺跡に平和を学ぶ京都の会	韓国・済州島平和ツアー報告
2	長谷川曾乃江	NPO 法人安房文化遺産フォーラム	韓国・京畿湾エコミュージアムと仙甘学園跡
3	出口 敬子	聞き書きボランティア「平野塾」	八幡空襲の記憶と記録を継承する意義
4	北原 高子 松樹 道真 <small>まつき</small>	NPO 法人松代大本営平和祈念館	ガイド活動・広報活動の広がり
5	芹沢 昇雄	NPO 法人中帰連平和記念館	中帰連と記念館近況



第1分科会での発表状況



第2分科会での発表状況



第3分科会での発表状況



北九州の戦争遺跡・活動状況展示1



北九州の戦争遺跡・活動状況展示2



図書交換会

閉会集会 15:00～



会場風景



ネットワーク共同代表 出原氏



各分科会の報告



大会運営スタッフ挨拶

大会アピール(抜粋)

北九州市内には、数多くの戦争遺跡が良好な状態で現存している。また、陸上自衛隊曾根訓練所には、毒ガス弾の製造が行われた施設が残されており、本格的な調査が待たれている。福岡県教育委員会の調査報告書「福岡県の戦争遺跡」刊行は、私達にとって大きな財産で、進んだ取り組みに敬意を表します。

しかし、多くの戦争遺跡が存在する福岡県にあっても、指定された戦争遺跡はわずか6件にとどまり、北九州市内には1件もないのが現状です。悉皆調査の成果をもとに、できるところから史跡・文化財への指定を進めるよう、福岡県・北九州市に強く要望する。

世界では、戦禍が続く状況に抗し、「新たな戦争遺跡」を作らないこと、「加害」を含め戦争の真実と平和への思いを次世代に継承していくことが、私たちの運動の目的であることを確認し、この運動をさらに前進させることを誓って大会アピールとする。

北九州やはた大会の成果

今大会では、アピール文にある「戦争の真実と平和への思いを次世代に継承」することについて、例年にはなく地元大学生による地域報告で実践することが出来たことが大きな成果と考えている。

8月19日(月) 現地見学会

集合場所:JR 八幡駅 8:30

① 半日コース 3ヶ所見学

JR 八幡駅出発 ～ 若松区軍艦防波堤・戦後再利用された軍艦 ～ 小倉陸軍造兵廠・地下道
～ 平和のまちミュージアム ～ JR 小倉駅新幹線口(12:30 解散)



若松区軍艦防波堤



小倉陸軍造兵廠・地下道



平和のまちミュージアム

② 1日コース 4ヶ所見学

JR 八幡駅出発 ～ 門司港大連航路上屋・第七艦隊本部等 ～ 下関市火ノ山砲台・明治と昭和の複合遺跡 ～ 昼食(満珠荘) ～ 小倉陸軍造兵廠 ～ 平和のまちミュージアム ～ JR 小倉駅新幹線口(15:00 解散)



門司港大連航路上屋



昼食(満珠荘)



小倉陸軍造兵廠・防空監視哨



平和のまちミュージアム

8 大会参加者状況

① 参加者数 195名 [内学生23名]

地域区分別参加者数					
地域区分	都府県	参加者数	地域区分	都府県	参加者数
海外	韓国	3	中国	岡山	2
北関東	埼玉	2		広島	6
	群馬	1		山口	8
	長野	6	四国	香川	1
	山梨	1		愛媛	1
南関東	東京都	10	九州	高知	1
	神奈川	8		福岡	18
東海	愛知	3	九州	熊本	5
	岐阜	1		大分	2
	三重	2		鹿児島	9
近畿	大阪	4	開催地	北九州市	96
	京都	4	合計		195
	兵庫	1			

※ 大会開催直前の台風接近による交通機関の運休や、酷暑による体調不調等により、多くのキャンセル者が続出し、予定人員を下回った。

② 参加者内訳

17日全体会参加者数	149名	[内交流会参加者数72名]
18日分科会参加者数	131名	
19日現地見学会参加者数	70名	
延参加者総数	350名	

③ 参加申込方法等

グーグルフォーム利用	124名
郵便・ファックス利用	48名
当日受付	23名
総数	195名

④ 学生の参加状況

17日全体会参加者数	20名
18日分科会参加者数	17名
19日現地見学会参加者数	6名
延参加者総数	44名

※ 所属大学名

九州国際大学、北九州市立大学、福岡教育大学、九州産業大学、福岡大学、鹿児島大学、京都大学、慶応義塾大学

9 参加報道関係者

朝日新聞 毎日新聞 西日本新聞 読売新聞 共同通信社 小倉タイムス
NHK 北九州 テレビ西日本 JCOM

2024年(令和6年)8月18日(日) 毎

戦争遺跡に関する調査結果などを発表する三輪ゼミの学生たち



戦争の遺跡や歴史は 世代を超え共有できる貴重な地域資源

保存活用 考えるシンポ

九国大 記念講演や調査報告

戦後80年へ

戦争遺跡の保存と活用について考える「第27回戦争遺跡保存全国シンポジウム」が17日、八幡東区の九州国際大で開かれた。記念講演や調査報告、九国大城域経歴学科地域づくりコース(三輪ゼミ)の学生によるワールドワイドな報告があり、参加した約200人は熱心に耳を傾けた。太平洋戦争で日本本土初となった大規模空襲「八幡大空襲」(1944年6月)から今年で80年。九国大や付属高校の学生、生徒を対象にした八幡大空襲(45年8月)や小倉への原爆投下計画などに関するアンケート調査の結果や、行橋市や山口県下関市といった北九州府県間の戦争遺跡を巡るワールドワークなどについて報告した。

学生たちは「地域の戦争の歴史や戦争遺跡は、世代を超えて意識

北九州 2024年(令和6年)8月18日(日曜日)

戦争遺跡活用を考える

九国大で全国シンポが始まる



戦争遺跡の保存や活用法について考える戦争遺跡保存全国シンポジウムが17日、北九州市八幡東区の九州国際大で始まった。19日まで戦争遺跡の研究者や保存団体による活動報告、市内の戦争遺跡などの見学会が行われる。

市民団体「戦争遺跡保存全国ネットワーク」(長野市)などが主催し、県内では初開催。17日の全体会には全国から約200人が参加し、基調報告した同団体の菊池実・共同代表は「戦争遺跡は負の遺産であり、人類への警告の場として必要」と強調した。

その後、同大学生が同大と付属高の学生・生徒を対象に実施したアンケート調査や、九州・山口・沖縄の戦争遺跡での現地調査の結果などを発表。「戦争遺跡に関する教育は地域や世代によって格差があったが、うまく活用できれば若い世代の意識を変える場所になるのでは」と指摘した。

や気持ちを共有し、戦争の歴史や教訓を伝えるには必要だとし、平和な歴史を継承し、戦争遺跡をめぐって世代を超えて語り継ぎたい」と述べた。

シンポジウムは18日(19日)に続く。19日は、実行委員メンバーの「大規模空襲上層からの視点」PO法人「北九州市の歴史を学ぶ会」の「文化財を守る会」の報告。

2024年(令和6年)8月18日 日曜日

「八幡大空襲」の認知 高大生の3割と報告

九国大で戦争遺跡保存シンポ



戦争の記憶の継承について発表した九州国際大2年の荒田海音さん

太平洋戦争中などの戦争遺跡の保存や活用について考える「第27回戦争遺跡保存全国シンポジウム」(西日本新聞社後援)が17日、九州国際大(八幡東区)で開かれた。専門家による講演のほか、同大の学生が戦争の記憶の継承について、若い世代への意識調査や戦争遺跡でのフィールドワークを基に報告した。

シンポジウムは「戦争遺跡保存全国ネットワーク」が主催し、全国から約200人が参加。米軍爆撃機B29による本土初の空襲から80年を迎えたのに合わせて、攻撃目標となった八幡製鉄所があった現在の八幡東区で開催された。

学生の報告には、同大の三輪仁教授(地域経済学)のゼミ生4人が登場。同大と付属高で取った763人のアンケートから、小倉への原爆投下計画は全体の約6割が知っていた一方で、

「八幡大空襲」の認知度は全体の約3割、北九州出身者でも4割にとどまることを明らかにした。四ゼミの荒田海音さん(20)は「山口県は「八幡大空襲」を機軸で扱うのは、市内でも一部の小中学校で限定されている。家庭で伝えていくことも大事だ」と話した。

おきでは山口県下関市に残る旧日本軍の高射砲や要塞跡も訪れた。同市出身の谷口和香さん(20)はフィールドワークで初めてこの場所が戦争遺跡であることを知ったという。「地元にあるのに、社会学などで学習する機会が少ない。うまく活用すれば、若い世代の意識を変える場所になる」と述べた。(中西聖登)